

# 北の都は

(昭和四十九年寮歌)

大森秀治君 作歌・作曲

## 一

北の都は開発かれて  
喪失われゆく大自然  
寮の姿も変われども  
恵迪の名は永遠に

## 二

残雪溶けて東風吹かば  
大地は黒々と輝けど  
川流絶えて水は涸れ  
湿原に咲く花影なし

## 三

緑葉さわぐ楡の森  
昔日の影すでになく  
短き盛夏の夕陽を浴びて  
ただ寥々と佇立まう

## 四

虚空逍遙う月の影  
蒼白く映ゆ原始森の木々  
秋風にうたれて舞う落葉  
早雪までのこの眺望

## 五

白雪烈風に舞い上がり  
疎々たる杜を吹き抜けぬ  
樹影に黒き鴉鳥  
寂莫として声もなし

## 六

警醒の鐘鳴らせども  
迷夢の夜は未だ明けず  
行方も知れぬ朔風に  
心の痛みつのるかな

## 七

北に旅してこの宿に  
仮寝の夢を食りて  
過ぎし歲月早二年  
懐かしさ満つこの団居